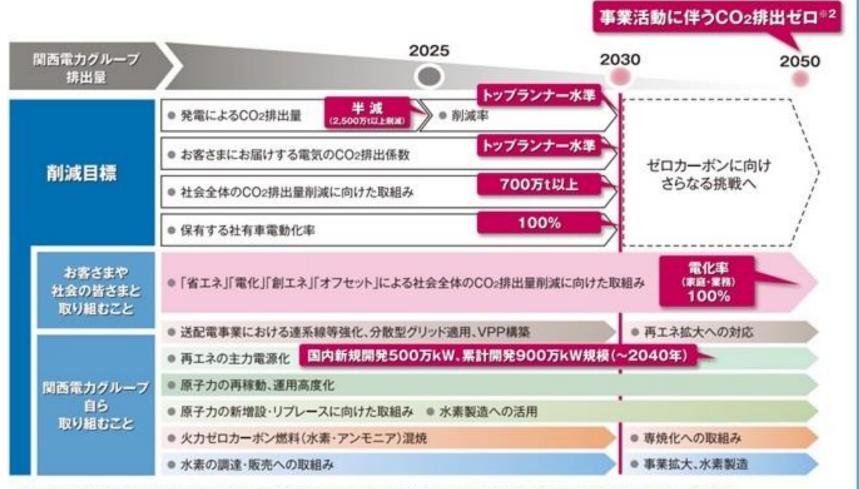




ロードマップの全体像

ゼロカーボンロードマップは、『ゼロカーボンビジョン2050』*1を実現するための道筋を定めたものです。



※1: ビジョンにおける3つの柱(デマンドサイド・サブライサイド・水素)をそれぞれ、「お客さまや社会の皆さまと取り稽むこと」/「関西電力グループ自ら取り稽むこと」(水素含む)と整理

⇒2:事業活動に伴うCO₂排出ゼロに向けては、関係会社分の取り扱いも含め、技術開発や政策・制度動向に応じて、ロードマップを柔軟に見直しながら、実現を図ってまいります



関西電力グループ自ら取り組むこと

- ●「再エネ」「原子力」「ゼロカーボン火力」「水素」の各分野で、 ゼロカーボンに向けた様々な取組みに挑戦します。
- 原子力の安全安定運転を継続し、発電によるCO2排出量を2025年度に半減(2,500万t以上削減)。 2030年度に向けて、原子力・再エネを中心に、さらなる削減深掘に取り組み、削減率でトップランナー水準を 実現し続けることを目指します。

発電によるCO2排出量半減

2025

2030

2050

(国の2030年目標を5年前倒し達成)

トップランナー水準

排出ゼロへ

ゼロカーボン発電電力量 国内No.1

半減に向けた取組み

さらなる削減深掘 排出ゼロへの布石

再工永

- 2040年までに、洋上風力中心に、国内で 1 兆円規模の投資を行い 再エネ新規開発500万kW、累計開発900万kW規模へ
- 原子力
- ●原子力の再稼動
- 原子力の運用高度化
- 新増設・リプレースに向けた取組み(次世代軽水炉・SMR*1・高温ガス炉等)
- 水素製造への活用
- ゼロカーボン 火 カ
- ゼロカーボン燃料混焼

●専焼化への取組み

● CCUS^{※2}技術評価

• 導入検討

- 水 素
- 海外水素調達

● 海外調達の拡大と国内製造

● 水素販売開始

● さらなる事業拡大

※1.SMR: 小型モジュール炉

※2.CCUS:排ガスからCO2を回収し、有効利用または地中等に貯留する技術

04